



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2019.5

No. 422

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



埼玉県から海鳥探鳥へ

山本 巧 (加須市)

海鳥探鳥と聞くとハードルが高いと感じる人が多いのではないのでしょうか。特に埼玉県は、全国47都道府県の中で海に面していない8県の中の一つになります。この「海のない県」ということで馴染みのうすい海、そしてそこにいる海鳥に対して敬遠してしまう方も多いのではないのでしょうか。私も埼玉県在住であり以前はそのように思っていた一人でしたが海鳥にハマってしまい、今では海鳥を見るために一人で船に乗ることもあります。海鳥を見始めて気付いたことがあります。それは、埼玉県は思った以上に海鳥を見に行きやすい県ということです。

● **海鳥にハマったきっかけ** は「硫黄3島クルーズ」に参加したことです。当時は仕事が忙しく海鳥どころか県内の探鳥にも数年の間ほとんど出かけていませんでした。しかし、仕事に区切りが付き、まとまった休みが取れることになった時に目についたのが「硫黄3島クルーズ」でした。

「硫黄3島クルーズ」の詳細については省きますが、同乗していた親切な方々に教えて頂きながら、不慣れな船上探鳥もカツオドリの乱舞や憧れの鳥であるアカオネツタイチョウなどを見ることができて、とても楽しいものでありました。

しかし、楽しみながらもこの探鳥中でモヤモヤしていたこと、不思議に思うこともありました。

モヤモヤしていた理由は、その鳥は見ていましたが自分には種類の認識ができなかったことが少なからずあったことです。そしてそれは、「なぜ、あんなに遠い、それこそ米粒程度にしか見えない鳥の識別ができるのか？」

「なぜ、あの一瞬で通り過ぎてしまった鳥の識別ができるのか？」と不思議に思うことにつながっていきました。

この2点は単に知識不足、経験不足ということに収束されると思います。

そして、海鳥に対する経験が圧倒的に足りないことを痛感させられたことにより、海鳥への関心が高まりました。

久しぶりの海鳥探鳥が楽しかったこと、海鳥への関心が高まったことで、機会があれば海鳥を見に船に乗るようになり、いつしか海鳥にハマってしまいました。

● **海鳥探鳥の方法** としては、定期航路（大洗～苫小牧航路、東京～小笠原航路など）、観光船（イルカ・クジラウォッチング船、知床クルーズなど）、チャーター船（観光船やダイビング船など）、海岸からなどがあります。埼玉でも数年前に城ヶ島で探鳥会を実施したことがあります、私も参加しました。

海鳥を本格的に見始めたときには、大洗～苫小牧航路（大型客船）、東京～八丈島航路（大型客船）、イルカ・クジラウォッチング船（小型船）に機会があれば乗っていました。計画的に行くこともあれば、突発的に前日や当日に行くことを決めて行くこともありました。

実際、イルカ・クジラウォッチング船などの小型船は天候に左右されることが多く、当日に欠航が決まることも少なくなく、乗船すること自体できないことも多々あります。そのため、前日の天気予報を見てから行くことを決めていたこともありました。

また、大洗～苫小牧航路は、深夜便であれば金曜日の仕事が終わった後に向かっても乗ることができ、往復して日曜日の夜に帰宅することができました。

東京～八丈島航路も同様で、夜遅い時間の出航のため、これまた金曜日や土曜日の仕事が終わった後に乗り、翌日の夜に帰宅することができましたので、思い立った時に船に乗っていました。

そうです。埼玉県は隣都県から海鳥が見られる航路が複数あり、交通の便も悪くはありません。直前に思い立っても乗ることができるといって行きやすいのです。

● 公共交通機関でのおよその所要時間

東京都竹芝 東京～八丈島航路（大宮から竹芝桟橋まで約1時間）。

東京都竹芝 東京～小笠原航路（大宮から竹芝桟橋まで約1時間）。

茨城県大洗 大洗～苫小牧航路（大宮から大洗港まで約2時間30分）。

● **海鳥探鳥の面白さ** は、何と言っても日々の生活ではまず出会うことのないアホウドリ類やミズナギドリ類などに会えることです。広大な海を移動している海鳥と航行している船が重なった点でやっとうち会うことができると考えるとなんととも素敵なことだと思いませんか。

そして、どんな海鳥に出会えるかわからないドキドキ感もあります。お目当ての海鳥が近くを飛んでくれるかもしれませんし、珍しい海鳥に出会えるかもしれませんし、何百何千もの群れに出会えるかもしれません。可能性は海の広さくらいある、と言ったら言い過ぎかもしれませんが、海はどこまでもつながっているのですから、「ひょっとしたらこんな海鳥が……」など妄想がかきたてられます。

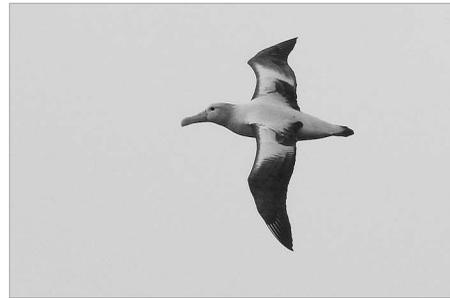
もしもそのようなことを目の当たりにできたら、きっと感動することでしょう。私の場合は航路補正でもかかっているのか、その傾向が強く「その感動をもう1度！」とまた船に乗ってしまうのです。

もちろん、海鳥も陸上の鳥と同じように出会い頭の遭遇だけではなく、その鳥の見やすい時期と場所の傾向というものもあります。ただ、陸上よりも海上の方が良くも悪くも「何が起きるかわからない」という面白さがあります。

● **おすすめの海鳥探鳥** は定期航路の、それも大型客船で埼玉県からでも車や電車で行きやすい、大洗～苫小牧航路と東京～八丈島航路です。

大型客船のメリットは船が大きいこと、揺れが小さいこと、鳥を見る場所になる甲板が広い（三脚が立てられる）こと、航路が長い（デメリットにもなり得る）、欠航が少ないなどです。

もちろんデメリットもあります。デメリットは、小さい船と比べて鳥が遠いこと、船の



反対側が大抵見えない（見え難い）ことなどです。大型客船では、鳥は遠くはなりますが、揺れが小さいため双眼鏡でじっくり観察することもできますし、船酔いの心配も少なくなります。

● **時期** ですが、大洗～苫小牧航路ではミズナギドリ類をたくさん見ることが期待できる5月、6月、11月とウミスズメ類をたくさん見ることが期待できる3月です。

東京～八丈島航路は、やはりここ数年アホウドリ（右上写真）がよく見られている3月、4月がおすすめです。

また、気軽にはいきませんが、小笠原航路や私が海鳥にハマったきっかけになった年に1回程度実施されている「硫黄3島クルーズ」は、カツオドリ類やネッタイチョウ類、アジサシ類など、大洗～苫小牧航路や東京～八丈島航路ではなかなか見ることができない海鳥を見ることができるのでとてもお勧めです。

最後に航路探鳥は長丁場になることが多いです。酔い止めの薬を飲んでいても船酔いをすることもあります。また、大抵甲板での観察になりますので、観察中に風に当たり続け体感温度が数度下がることもあります。

私も「休憩中に鳥が出たら嫌だなあ」と思うことが多々ありますが、休憩なども適度に入れて自分の体調に合わせた観察をすることも大事です。



カワリシロハラミズナギドリ

英名 Kermadec Petrel

学名 *Pterodroma neglecta*

分類 ミズナギドリ目ミズナギドリ科シロハラミズナギドリ属



本誌本年1月号(418号)の5頁「野鳥情報」に掲載された「越谷市で保護されたシロハラミズナギドリ属のミズナギドリ」に関し、山本巧会員より「カワリシロハラミズナギドリの淡色型ではないか」との指摘が寄せられました。

1月号「野鳥情報」に掲載された写真および上の写真を含む5枚の写真によれば、①頭は前頭のみが褐色で、後頭から後頸・喉は白く、背面の黒褐色部分とつながっていない、②胸に淡褐色の帯が薄く見られる、③翼下面の濃褐色の部分が広く、脇の部分が白くない、④翼下面の初列風切に大きな白斑が認められる、⑤翼下面の前縁に細い白色帯がある、⑥下尾筒が濃褐色である、等の様子が見て取れ

ます。

保護当初の2018年10月5日、このミズナギドリの同定にあたった当委員会の榎本秀和委員長は、「カワリシロハラミズナギドリの特徴とされる初列風切の上面基部の白い羽軸は、目視では確かめられなかった」と述べていますが、翼の張りのゆるい状態では見られなかったのかもしれませんが。それを裏付ける写真もありません。また、「跗蹠側がピンク色、みずかき側が黒という足の色が、カワリシロハラミズナギドリの足の色とは合致しない」とも述べていますが、これは後日、カワリシロハラミズナギドリの淡色型なら矛盾はないと判明しました。

以上のことから、当委員会は、このミズナギドリの種名をカワリシロハラミズナギドリ(淡色型)と確認し、344種目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにします。

本種は、南太平洋の島嶼で繁殖し、非繁殖期は北太平洋で過ごすと考えられ、我が国では、おもに秋口に中部以北の太平洋側海上で観察されます。暗色型の観察例が比較的多く、今回の事例のような淡色型はきわめて稀のようです。体力回復後に、越谷市内で放鳥されました。

<参考文献>

Peter Harrison, 1985. SEABIRDS : An identification guide (Revised edition)
箕輪義隆, 2007. 海鳥識別ハンドブック

受け継がれているもの 関 さち子 (鴻巣市)

ある日、職場のアルバイト君が、「小さいころ、休みのたびに父親の山登りに付き合わされて、すごく嫌だった」という話をしていた。

それを聞いてふと思った。ウチの子たち(3人)は…。小さい時から夫のバードウォッチングに付き合わされ、休みのたびにあちこち探鳥地を連れ回されていたっけ。子供心

にどう感じていたのかな。

大きくなるにつれ、親と行動を共にすることはなくなったが、どの子も、いまだに野鳥の名前はよく覚えているし、渡り鳥の訪れには関心がある。ということは、ウチの子たちの場合、父親に付き合うのはそれほど苦ではなかったのかもしれない。

今では、1歳半の孫娘が、ハクセキレイのことを「トコトコ」と呼んで親しんでいる。何か、受け継がれているものがきっとある。



野鳥情報

伊奈町小室 N36.0076 E139.6289 ◇12月26日、田圃でホオアカ5、タヒバリ6、ホオジロ3（関口明宏）。◇12月28日、スズメ100±、ハクセキレイ16、カルガモ2、タヒバリ4、モズ2。内1羽は赤かったのでアカモズ？（長嶋宏之）。

さいたま市緑区上野田 ◇12月29日、クワイ田にケリ1。ハイタカがブッシュに突っ込む（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇1月1日、オオバン、カイツブリ、コガモ、マガモ、アオサギ、コサギ、アリスイ、ハクセキレイ、オオジュリン、アオジ、ホオジロ、ウグイス、ツグミ、シジュウカラ、エナガ、コゲラ、キジ、シメ、カワラヒワ、ジョウビタキ♀、メジロ、モズ、ヤマガラなど。同日、東埼玉病院地内でコジュケイ、カケス、エナガ、アカゲラ♀（鈴木紀雄）。

鴻巣市赤見台 ◇1月2日午前10時頃及び1月3日午前10時頃、12時頃、JR北鴻巣駅近くの武蔵水路、柳橋から赤見橋の間でツバメ2が元気に飛翔していた。例年3月下旬頃が飛来時期だと思うが、この暖冬のせいでしょうか、越冬？ 驚きました。ただ、同行者は無く、私一人が見ただけです。種類までの知識はありませんが、ツバメに間違い無いと思う（竹中郁夫）。

鴻巣市大間 (54390379) ◇1月2日午前11時頃、鴻巣市立鴻巣西中学校北側でツバメ1を目撃!! 驚きました（榎本みち子）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇1月2日、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ2、オオバン、ツミ、ウグイス、ヒヨドリ、エナガ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、シロハラ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、アオジなど（鈴木紀雄）。

渡良瀬遊水地 ◇1月3日、ミサゴ、オオタカ、ハイタカ、トビ、コウノトリ、ハイイロチュウヒ♂2、チュウヒ約20（鈴木紀

雄）。

さいたま市見沼区見沼自然公園 ◇1月4日、トモエガモ♂1、オナガガモ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、オカヨシガモ、オオバン、カイツブリ、カワセミ♂1、コゲラ、シジュウカラ、シロハラ、ジョウビタキ♂、アトリ8、ルリビタキ♀1、シメ、アオサギ、ダイサギ、ヒヨドリなど（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区高曾根 ◇1月5日、コサギ4が道路脇の側溝から飛び出す。アオサギ37、田んぼに佇む。ケリ3（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇1月6日、カルガモ、マガモ、コゲラ、キジバト、ツグミ、シジュウカラ、シロハラ、シメ。カワラヒワの群れ中にアトリ数羽、ヒヨドリ、エナガ、ルリビタキ♂1、カケス。元荒川上流でセグロカモメ（鈴木紀雄）。

吉見町吉見総合運動公園 ◇1月6日、ハヤブサがドバトの群れを追いかけたが失敗。数回繰り返し、狩りを試みたが、いずれも失敗に終わった。狩りの技術が未熟なようだ。トビとノスリがゆったりと輪を描いていた。タゲリが数羽優美な飛翔姿を見せてくれた。亜種オオカワラヒワの群れが芝生で採餌。シメも多かった。他にアオサギ、ツグミ、ホオジロ、モズ、コゲラ、ヒバリ等（長嶋宏之）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇1月7日、風が強く、カモ類は北のヨシ原側にかたまって、小鳥達の出も悪かった。それでも、ヨシガモやマガモは順光で綺麗だった。その他、オカヨシガモ、キンクロハジロ、オナガガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、など全部で8種楽しめた。また亜種ダイサギと亜種チュウダイサギの大きさ比較ができた。他にセグロカモメ、カンムリカイツブリ、オオバン、カワラヒワ等（長嶋宏之）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇1月9日、ムクドリが増えてきて29。ナラ林にツグミも増えてきた57。林床でシロハラが落ち葉

をひっくり返していた。カルガモ64の中にマガモ♂1。1月11日、ツグミ50+の中でカケスが1、虚勢を張っていた。カルガモ59、中にマガモ♂1。1月16日、ツグミ100+、1本の銀杏がツグミでいっぱい。居場所を追われたヒヨドリ23。ムクドリはマイペースで9。1月22日、ツグミ減少して23。勢力を取り戻したヒヨドリ28。コゲラ1、エナガ2。1月28日、ハイタカはカラス3に追われて、オオタカは悠々と旋回。ツグミ20、ムクドリ電線に並んで85。ヒヨドリ35。1月31日、銀杏の木にシメ2、ツグミ5。ツグミはばらけたようだ(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区合併記念見沼公園 ◇1月13日午前9時50分頃、カモのカウントに行っていたらクイナ1が池のそばで人を気にするでもなく採餌していた(森本國夫)。

加須市加須はなさき公園 ◇1月14日、カワセミが水面を真っ直ぐに飛び、コガモが急に飛び上がった。ヒドリガモ50±が草を食べていた。ヨシ原からキジ♂が飛び出した。他にカルガモ、ハシビロガモ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン等。1月17日、オオタカが頭上を通過。綺麗だった。次いでチョウゲンボウも頭上を通過。ノスリが重機のアームに止まって、下をしきりに見ていた。ネズミでもいたのだろうか? 他にキジ♂、ホオジロ、アオジ、オオジュリン等(長嶋宏之)。

白岡市西3丁目 N36.0140 E139.6494 ◇1月18日、元荒川の中州でコガモ2、ハクセキレイ2、セグロセキレイ2、コサギ1(長嶋宏之)。

蓮田市貝塚山ノ神沼 ◇1月18日、カルガモ38、マガモ8、ヒドリガモ26、コガモ17、カワウ9、バン1、オオバン13、アオサギ、ゴイサギ、ツグミ5、ハシボソガラス2。1月31日、オオタカがカラス

6にモビングされていた。カワセミ1、タゲリ4、カワラヒワ15±、シメ1、ツグミ1、ジョウビタキ♀1、オナガ2等(長嶋宏之)。

横瀬町埼玉県民の森 ◇1月22日午前8時30分現地に着く。しばらくすると小雪が降りだす。じっと待っていたらオオマシコの♂(下写真)、続いて♀が現れた。小雪の中でオオマシコの赤が目には焼き付いた。他にウソ、ヤマガラ、コガラ、ヒガラ、アトリ、ホオジロ♀、カシラダカ、アカゲラ、コゲラ、シジュウカラ、カケス等(関口明宏)。



北本市深井八丁目 ◇1月24日、田んぼでミヤマガラス約300(嶋田富夫)。

東松山市あずま町4丁目(54390303) ◇1月26日、ミヤマガラス2が耕地横の電線にとまっていた。その前に50~60のカラスが上空を飛んで行ったが、その群れもミヤマガラスだったのかも知れない。この地域では初めて観察したカラスだったが、マイフィールドではないので、いつ頃から来ていたのかは不明。翌日及び翌々日にも同地付近で範囲を広げて探索してみたが、1羽も確認できなかった。まだ定着していないのかも知れない(中村豊己)。

桶川市篠津赤堀川 ◇1月30日午後4時50分、タシギ1。この近辺では初見。前後してイソシギ、カワセミ、セグロセキレイ各1(小貫正徳)。

表紙の写真

ペリカン目サギ科アマサギ属アマサギ

5月と言ったら田んぼの風、キジのホロ打ち、ムナグロとアマサギ……。

徳名貴房(さいたま市)



行事案内



コチドリ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：5月3日(金・祝)

集合：午前9時15分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線 東武動物公園駅東口から境車庫行き 8:45 発のバスで「上宇和田」下車。北方向に徒歩 5 分。

担当：佐野、小林(み)、佐藤(宏)、竹山、村上(政)

見どころ：昨年は見られなかったシラコバトは出てくれますでしょうか？ 田んぼではムナグロやコチドリに期待です。

茨城県・稲敷市浮島、神栖市小見川探鳥会(要予約)

期日：5月5日(日・祝)

詳細は、3月号4ページをご覧ください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月6日(月・振休)

集合：午前9時30分、JR京葉線 南船橋駅前。

交通：JR 武蔵野線(京葉線直通) 武蔵浦和 8:27→南浦和 8:31→南船橋 9:22 着。

解散：正午ころ、現地です。

担当：杉本、伊藤、手塚、長谷部、菱沼(一)、菱沼(洋)、渡邊

見どころ：沿海性のシギ・チドリの春の渡りを観察します。華やかな夏羽が見られます。

東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：5月10日(金)～12日(日)

詳細は、4月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月12日(日)

集合：午前9時40分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:21 発、または寄居 8:59 発に乗車。

担当：茂木、新井、鶴飼、大畑、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上(政)

見どころ：いよいよ初夏の兆しが見られる中、大麻生の森や野原に小鳥達はどんな姿を見せてくれますでしょうか？ 特に青い鳥、または???

栃木県・奥日光(戦場ヶ原)探鳥会

期日：5月12日(日)

集合：午前10時、日光赤沼バス停前。

交通：東武日光線 春日部 7:03 発特急リバティげごん1号東武日光・会津田島行きに乗車、終点東武日光 8:22 着。東武バス 東武日光駅 8:45 発光徳・湯元行きに乗車し「赤沼」(9:49 ころ着)で下車。

解散：15時30分ころ、奥日光湯滝レストハウス横。

担当：入山、近藤、佐野

見どころ：奥日光の赤沼から湯滝まで、湿原や溪流沿い等の環境の変化に富んだコースを歩きます。キビタキ等の夏鳥の美しいコーラスを存分に楽しみましょう。

その他：①昼食と雨具を必ず持参してください。②探鳥コースは、ほとんど平坦で5km

位歩きます。途中、トイレがありません。
③東武鉄道「まるごと日光東武フリーパス」がお得で便利です。④前日(5/11)17時発表の、宇都宮地方気象台気象情報0288-177で、栃木県北部5/12午前中の降水確率が50%を超えた場合は中止です。その場合、担当者は集合場所に行きません。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月18日(土)
集合：午前8時45分、東武伊勢崎線 花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園管理事務所前。
交通：東武伊勢崎線 春日部8:14→久喜8:27→花崎8:34。またはJR宇都宮線 大宮7:53→久喜8:15で東武伊勢崎線乗り換え。
共催：加須はなさき公園管理事務所
担当：長嶋、相原(修)、相原(友)、石川、茂木、渡邊
見どころ：公園内の身近な野鳥を楽しみます。子育て中のシジュウカラやメジロ。縄張りを主張するオオヨシキリ。空にチョウゲンボウやオオタカが舞えばラッキー。

埼玉 Young 探鳥会 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地

期日：5月18日(土)
集合：【電車の方】午前9時15分、東武日光線 板倉東洋大前駅 東口。【車の方】午前9時30分、想い出橋駐車場。
共催：日本野鳥の会東京
担当：廣田、石塚(敬)、大林、河邊、島崎、高崎
見どころ：国内でも生息地が限られるオオセッカをはじめ、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカが見どころです。また、ヨシゴイ、サンカノゴイが見られることも！ ヤングな皆様、初心者、ご家族連れ大歓迎です。ご注意：昼食をはさんで13時半ころ解散の予定です。

『しらこばと』袋づめの会

とき：5月18日(土)午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

秩父市・中津川探鳥会 (要予約)

期日：5月18日(土)～19日(日)
詳細は、4月号をご覧ください。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月19日(日)
集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50 m先左手バスターミナルから東武バス「さいたま市立病院行き」8:23発で終点下車。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：小林(み)、浅見(健)、楠見、小菅、須崎、畠山
見どころ：キジにヒバリにホオジロ。五月の三室は爽やかな声に満ち溢れています。騒がしいオオヨシキリの声もしているかも。鳴いている鳥を見つける練習もできるかな。

長野県・戸隠高原探鳥会 (要予約)

期日：5月25日(土)～26日(日)
詳細は、4月号をご覧ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月26日(日)
集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。
交通：西武新宿線 本川越8:43発、所沢8:38発に乗車。
解散：正午ころ、稻荷山公園。
担当：長谷部、石光、佐藤(久)、島崎、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本
見どころ：鳥たちのさえずりを楽しみながら、一番の見どころササゴイを探します。5月の探鳥会では、2010年から連続して見られています。

埼玉 Young 探鳥会 東京都・三宅島 (要予約)

期日：5月31日(金)～6月1日(土)
詳細は、4月号および当会HPをご覧ください。



行事報告

10月28日(日) 松伏町 まつぶし緑の丘公園 Beginner

参加: 35(会員12)名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ ダイサギ バン オオバン カワセミ モズ ハシボソガラス シジュウカラ ヒヨドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (20種) (番外: ドバト) 今季、初開催! 多くの方にお越し頂いた。池の中にはカモ類、サギ類、そして“ビギナー向け”には欠かせないカワセミも登場。時間をかけて1種1種じっくりと観察。(石塚敬二郎)

12月24日(月、振休) 幸手市 宇和田公園

参加: 51(会員44)名 天気: 晴

コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ イソシギ トビ ハイタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシボソガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (28種) (番外: ドバト) まずは中川へ出てお目当てのシラコバトを探すも、強風の為か姿をみることはできなかった。残念!! 代わりに常連であるカワセミやチョウゲンボウをじっくり観察できた。公園へ戻り、風をよけながら小鳥を観察。最後に再び中川へ出るも冷たい風は収まらず、探鳥会は早めに終了。この条件で28種は大満足。(佐野和宏)

1月4日(金) さいたま市 さぎ山記念公園

参加: 48(会員43)名 天気: 快晴

オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ オナガガモ トモエガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン タシギ ハイタカ オオタカ カワセミ コゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシボソガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ

イ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (42種) (番外: ドバト) 海老原代表の新年挨拶に続いて、今年最初の探鳥会をスタート。開始早々にオオタカが飛び、コースの途中で真っ白な富士山も遠望。オオタカ若2羽のじゃれあいやアトリの群れの出現などで、予定時間をオーバー。最後に自然公園の池で美しい繁殖羽になったトモエガモも見て、大満足の探鳥会だった。(浅見 徹)

1月5日(土) 深谷市 仙元山公園

参加: 28(会員24)名 天気: 快晴

コジュケイ カルガモ オナガガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオタカ カワセミ コゲラ アカゲラ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ (32種) (番外: ドバト) 下見では鳥が少なく、不安なスタート。唐沢川でコサギの群れに出会い、カワセミを見つけてホッとす。仙元山では、まずモズがお出迎え。その後も個体数は少ないが、オオタカ、アカゲラ、カケスなども見られ、楽しめた。常連のツグミ、カシラダカ、ビンズイ、ジョウビタキなどがいなかったのは残念。(新井 巖)

1月5日(土) さいたま市 彩湖

参加: 33(会員30)名 天気: 晴

オカヨシガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ホオジロガモ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン タゲリ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ カモメ セグロカモメ トビ ノスリ モズ ハシボソガラス ハシボソガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ タヒバリ ベニマシコ アオジ (35種) スタートは湖畔で水鳥の観察。多数のホシハジロ、キンクロハジロの中にスズガモ、ホオジロガモといった珍客がいたが、人気を集めたのは意外にも、オオバンのフン。枯れた芝生の中、艶やかに輝くライトグリーンの美しさに、思わずシャッターを切る。鳥たちも食べて排泄して、し

っかり生きている。新春の青空を舞うトビの姿は、まさに“凧”。寅さん映画の毎度お馴染み、ラストシーンを思い出した。(小林みどり)

1月6日(日) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加: 52(会員47)名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン イカルチドリ イソシギ ミサゴ トビ ハイタカ オオタカ カワセミ コゲラ ハヤブサ モズ コクマルガラス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (43種) 暖冬で遅れていた冬鳥もほぼ出そろった。公園の池のカモは6種しか見られず寂しいが、餌付けもしていないのに年々距離が縮まってきているのは嬉しい。小さな池の対岸には番外も番外、タヌキが2頭姿を現した。上空では猛禽5種が楽しませてくれた。(橋口長和)

1月10日(木) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加: 27(会員25)名 天気: 晴後曇

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ホオジロガモ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン セグロカモメ オオタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ シメ アオジ (40種) (番外: ドバト) 予想を超えてカモ12種が出た。中でもヨシガモ♂10羽♀7羽の群れは目を惹いた。数は少ないがハシビロガモ、ホシハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサも健在だ。水辺の宝石カワセミも全員が見られ、林ではアトリとカワラヒワの混群に皆の足が止まった。空のオオタカの舞に感激しつつ終了。(長嶋宏之)

1月12日(土) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加: 30(会員26)名 天気: 曇

オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ スズガモ ホオジロガモ ウミアイサ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ オオバン ダイゼン シロチドリ ミヤコドリ ミユビシギ トウネン ハマシギ ユリカモメ ズグロカモメ ウミネコ カモメ シロカモメ セグロカモメ ニシセグロカモメ ミサゴ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒヨドリ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ オオジュリン (37種) (番外: ドバト) 海岸に出ると干潟が少し広がり、比較的近くでハマシギ、ミユビシギ、シロチドリが観察できた。ズグロカモメが近くで見られたのはラッキーだった。ヨシ原ではオオジュリン、東堤防ではウミアイサ、ハマシギの大群とお目当てのミヤコドリ。埼玉では見られない鳥たちに出会えた充実した探鳥会。(菱沼一充)

1月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 29(会員27)名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト トビ ハイタカ ノスリ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ トラツグミ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (29種) (番外: ガビチョウ) 土手でゴルフ場の木にモズ、ツグミ、シメ、草地にカシラダカ、アオジ、池にカルガモ、カイツブリがいた。ゴルフ場横の道でジョウビタキ♀、遠くの木にイカル、河原に出るとノスリが木にとまり、ハイタカ、トビが飛んだ。野鳥の森でエナガ、メジロの混群にキクイタダキがいた。池に行くと、トラツグミ、シロハラ、アトリ、アオジ、ガビチョウが出た。(千島康幸)

1月13日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 49(会員38)名 天気: 曇後快晴

コハクチョウ オオハクチョウ オカヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ バン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ オオタカ カワセミ コゲラ チ

ヨウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ クロジ (49種) (番外：ドバト) 前日雪、雨が降った影響か、思わぬ鳥達との出会いが多かった。芝川沿いで数年ぶりのクイナや、初のクロジ、久々のアカハラ、調節池ではハクチョウ10羽など、とても幸運だった。カモは少なく猛禽もあまり出てくれなかったのは残念だったが、比較的暖かい探鳥日和、けっこう楽しめた。(伊藤芳晴)

1月14日(月、祝) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
参加：42(会員37)名 天気：快晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ トモエガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ トビ ノスリ コゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ キセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (36種) (番外：ドバト) 入口付近でヤマガラ。日本庭園ではシロハラ。ルリビタキの鳴き声にジョウビタキが重なり姿探しに熱が入る。西田沼では、日に当たるキセキレイの姿が美しい。梅林では紅梅が開花し、福寿草も1輪。山田大沼では、水際にトモエガモが1羽。ハシビロガモは輪を作り採餌に夢中。終了後の帰途ではビンズイ、至近距離のガビチョウ、カケスの鳴声、逆さ姿のキクイタダキなども。(鈴木秀治)

1月14日(日) 春日部市 内牧公園
参加：39(会員29)名 天気：快晴

キジバト アオサギ ダイサギ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ (23種) (番外：ドバト) 探鳥日和の中、じゃぶじゃぶ池にわずかな水を求めてヒヨドリが水浴。シメ、キセキレイも採餌。雑木林ではシジュウカラ、コゲラ、メジロの混群、上の方ではツグミが飛び交い、ようやく冬鳥の季

節らしくなってきた。蓮田にダイサギ、水路にアオサギが佇むのを眺めながら、田の畔ではタヒバリをじっくり観察。屋敷林ではようやくシロハラが出て、最後にジョウビタキ♀1羽を全員が観察、可愛いクリクリ目が印象に残った。(石川敏男)

1月19日(土) 加須市 渡良瀬遊水地
参加：64(会員51)名 天気：晴

コハクチョウ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ カワセミ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ オオジュリン (44種) (番外：ドバト) 渡良瀬名物の強風。谷中湖は干し上げて水が少ないもののミコアイサやカワアイサ、そしてコハクチョウなどがいてくれた。そしてベニマシコも何度も姿を見せ探鳥会を盛り上げてくれた。早めに切り上げて鳥合わせすると、観察種は44種。この条件としてはいい結果ではないだろうか。(佐野和宏)

1月19日(土) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 Young
参加：48(会員20)名 天気：晴

コハクチョウ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ツルシギ クサシギ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ ハイロチュウヒ ノスリ コウゲンボウ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (44種) 谷中湖ではミコアイサ、カンムリカイツブリなど。参加者が釘付けになったのが湖畔で佇むツルシギ10羽！嬉しい出会い。ジョウビタキ、ツグミ、シメ、ベニマシコなど冬の小鳥たちにも会えた。(廣田純平)



●見沼自然公園周辺ごみ拾い探鳥会



3月9日(土)「見沼田んぼクリーンウォーク」の一環として実施。参加者 27 名。昨年より少ないごみを拾いながら、昨年より多い 39 種の鳥を観察しました。

●会員の普及活動

3月10日(日)比企郡小川町金勝山で開催された県立小川げんきプラザ主催「ジャムづくりとバードウォッチング」で、千島康幸、松下光、青山紘一が指導。参加者 54 名でした。

●2019 年度第 2 回県カワウ対策協議会

3月19日(火)午前10時から埼玉教育会館(さいたま市)で開催され、当会から小荷田行男が出席。2018 年度県調査結果(県みどり自然課)、森林公園内のアライグマ営巣(森林公園)、カワウ対策(県水産研究所)などの報告と、質疑応答などが行われ

ました。

●会員数は

4月1日現在 1,584 人です。

活動と予定

●3月の活動

3月9日(土)3月号校正作業(海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

3月17日(日)役員会(司会:山部直喜、各部・委員会等の報告、総会日付を当初予定の6月30日(日)から29日(土)に変更すること、次期役員についての話し合いなど)。

3月18日(月)『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』4月号を郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

●5月の予定

5月4日(土)編集部会。普及部会。

5月11日(土)6月号校正(午後4時から)。

5月18日(土)袋づめの会(午後3時から)。

5月19日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

桜が満開の松伏記念公園で、居残っている冬鳥を観察していると、「(3月21日の)探鳥会のリーダーさんでしょう」と声をかけられる。当日、新しく入会されたお二人のうちのお一人だ。公園の近くにお住まいらしい。こういう出会いは実にうれしい。(山部)

新元号になって初めての号。平成への切り替えも経験しているはずだけど、そんな昔のことよく覚えていないよ。(海)

しらこぼと 2019 年5月号(第 422 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社